

第1回中区まちづくり懇談会 会議要旨

1 開催日時 令和6年7月1日（月）15時～17時

2 開催場所 中区役所3階 第3会議室

3 出席者

(1) 委員（15人中14人出席）

江郷委員、大井委員、近藤委員、坂本委員、末松委員、高本委員、高山委員、田中委員、中田委員、中野委員、中元委員、三浦委員、山口委員、和田委員

(2) 委員外

石丸氏（NPO法人セトラひろしま 副理事長）

(3) 事務局（市）

区長、副区長（兼市民部長）、建設部長、建築担当部長、厚生部長、厚生部医務監、地域起こし推進課長

4 議題

(1) 座長、副座長の選出について

(2) 次期「中区のまちづくりアクションプラン」の策定に係る方針等について

(3) 現行「中区のまちづくりアクションプラン」の実績・評価等について

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者 0名

7 会議資料

議事資料1 次期「中区のまちづくりアクションプラン」の策定に係る方針等について

議事資料2 現行「中区のまちづくりアクションプラン」の実績・評価等について

参考資料1 中区まちづくり懇談会開催要綱

参考資料2 中区まちづくり懇談会の公開に関する取扱要領

8 発言要旨

〔開会〕

〔区長あいさつ〕

〔議事(1) 座長、副座長の選出について〕

＜事務局＞

座長、副座長は中区まちづくり懇談会開催要綱第4条第1項の規定により、委員の互選により選出することとなっている。

事務局としては、懇談会の進行、取りまとめを行う座長は、当懇談会の他にも、行政の審議会等の委員に複数就任しており、また、現行アクションプラン策定時における当懇談会の座長も公益財団法人 中国地域創造研究センター 専務理事に務めていただいたので、今回も、同法人 専務理事の大井委員をお願いしてはどうかと思う。

また、副座長は、中区社会福祉協議会会長のほか、中区コミュニティ交流協議会会長も務めてい

る和田委員にお願いしてはどうかと思う。

皆様の中から、座長や副座長に立候補される方、あるいはご推薦される方が特にいなければ、事務局案のとおり座長に大井委員、副座長に和田委員にお願いできればと思うがどうか。

(異議なし)

<事務局>

異議はないようなので、大井委員と和田委員にそれぞれ座長と副座長に就任していただく。大井座長に一言ご挨拶をいただきたい。

<大井座長>

微力ながら、これからの中区のまちづくりに少しでもお役に立てるよう務めるので、皆様ご指導・ご鞭撻よろしくお願いします。

<事務局>

中区まちづくり懇談会開催要綱第4条第2項の規定により、議事の進行は座長が行うこととなっているため、以後は、大井座長に議事の進行をお任せする。

[議事(2) 次期「中区のまちづくりアクションプラン」の策定に係る方針等について]

<大井座長>

議事(2)「次期「中区のまちづくりアクションプラン」の策定に係る方針等について」、事務局から説明をお願いする。

<事務局> (地域起こし推進課長)

(議事資料1により説明)

<大井座長>

ただいまの説明について、何か御質問、御意見等はあるか。

特に意見等ないので、次の議事に進む。

[議事(3) 現行「中区のまちづくりアクションプラン」の実績・評価等について]

<大井座長>

議事(3)「現行「中区のまちづくりアクションプラン」の実績・評価等について」、資料の説明がすべて終了したのちに質疑応答に入る。それでは、事務局から説明をお願いする。

<事務局> (地域起こし推進課長)

(議事資料2により説明)

<石丸氏>

公共空間を利用したにぎわいづくりなどの再編があると思うが、(次期アクションプランの終期である) 2030年は地球的にもいろんな課題を抱えていると思われ、例えば、本庁の取組かもしれないが、環境への取組が抜けているのではないかと思う。

あと外国人を対象とした事業がほとんど本庁事業となっているが、やはり中区はインバウンドが集まるので、それに対する視点、取組はないのか。

もう一つは、例えば、地域で掃除をすればコミュニティが醸成され、そこからイベントなどに派

生する。項目ごとに分かれているが、本当は一つの取組がいろんな項目と関係性を持っているので、それが分かるような形にすれば面白いと思う。イベント一つ取ってもいろんなテーマで分岐して関わり合いを持つ仕組みを本来持っている。良い企画を推進すれば全てがうまく回るというような状況もあり得るので、取組の相関関係みたいなものが分かれば、それぞれが意識しやすいと思う。そのため、項目は別でもいいが、これをやったらこういうことにもつながる、という視点があればより分かりやすいと感じた。

<大井座長>

環境の視点、外国人・インバウンドの視点はどうか、あるいは一つの施策で多様なつながりが表現できないか、といった御意見だったと思う。事務局のほうで何かコメントがあるか。

<事務局>（地域起こし推進課長）

プランに掲載している 56 の事業を推進すれば、それぞれ相乗効果を生むようなものであればよいが、石丸氏が言われるように、現行プランでは項目が散らばっている状況もあり難しかった。今回、プランを見直すに当たっては、一つの取組により相乗効果を生むような視点についても、次期プランをまとめていく中で整理することを検討できればと思う。

外国人については、多くの方が中区に来られるが、やはり市全体の取組として推進し、中区としては本庁と連携して実施していければと思っている。

外国人や環境に関する取組については、市全体の取組として推進しながら、中心部独自の特性を生かした取組があれば、本庁と協議して、次期プランへ掲載する項目について検討していければと思う。

<石丸氏>

誰が実施する取組かという点について、中区の特性として、中区民だけでなく、エリアマネジメント団体やNPOなど、他のエリアから来て中心部の活性化に向けたまちづくりイベントなどをしようとする主体が様々あり、その点が他の区とは違うと思う。そういった方々と区民との連携について、中区ではこうしますよ、というものがあれば分かりやすいと感じる。

<高山委員>

広島市はいろんな意味で非常に魅力があると思っており、その中でも中区がかなり集客力の高い部分を占めていると思う。夜の歓楽街もそうであるし、今中区でいろんなイベントスペースができていることもそうである。自らも楕円形のまちづくりということで、その中で活動をしており、こういった会議に出席した際に、いろんな方がいろんな活動をされてることを聞いて非常に良いと思うが、企画・実行する人だけが楽しんでいるということもあるのではないかなと思うため、もっと広がりを持てるとよいと思う。今日は広島城の会議にも出席してきたが、多くの外国人が広島城を訪れていた。そういった外国人に対して、広島城や平和記念公園など外国人が集まる場所で、中区でのいろんなイベントやお祭りなどのPR・案内をしていただければ、少しでも外国人が広島に滞在する時間が延び、宿泊する方も増えてくるのではないかなと思う。その点を中区がリーダーシップを取って進めていただければ、我々の活動の励みにもなると思うのでお願いしたい。

<大井座長>

石丸氏から区民と外部の方との連携の在り方という問題提起があった。また、高山委員からも、楕円形のまちづくりを進める中で、例えば、広島城に来られる外国人にイベントをPRするような仕組みが有効ではないかという御意見もあった。こういった点について事務局として何か考えはあるか。

<事務局>（地域起こし推進課長）

石丸氏が言われた誰が実施する取組か、という点について、現行のアクションプランはその部分が明確ではないため、今回プランを見直すに当たっては、中区のプランなので区役所が実施する取組を載せるということをメインに考えている。

さらに周辺との関わりについて、市長からも一石二鳥、一石三鳥、一石四鳥という話がよくある中で、今後意識していきたいのは、例えば、イベントの相談があったとき、その実施日を中区だけでなく、東、南、西区などの他区とも連携し、同様のイベントをする状況があれば、同一日に実施するような調整をして、他区も含めた回遊性向上の視点も持って実施できたらと考えている。その一つとして、アクションプランにおける都心の魅力を生かしたにぎわいづくりの中で、回遊性向上も意識して取組を検討し、皆さんと一緒に実践していきたいと考えている。

<末松委員>

説明があったアクションプランの実績・評価等については、この5年間の評価だが、5年経過すると社会環境の変化やコロナもあり、いろいろとまちづくりに関わる要素が変わっていると思うので、新たな視点で取組を入れてはどうかと思う。

また、夜のにぎわいという点では、ひろしまゲートパークや8月にはサッカースタジアム横にヒロパが完成するなど、おそらく夜にも人が往来するとなったときに、川辺空間が非常に暗いので、中区の所管なのかわからないが、そこを安全に回遊できるような施策が非常に必要だと思う。

具体的な活動では、城下町広島を活用したまちの魅力を向上するに当たっては、ボランティアガイドの活用も必要だと思うので、本庁にお任せではなく区も一緒にやるようなことを入れてはどうかと思う。

<大井座長>

本庁に任せるだけではなく新たな視点を追加して取り組んではどうかという意見、暗い川辺空間の改善に向けて何かできないかという意見だったがどうか。

<事務局>（地域起こし推進課長）

新たな視点について、次期アクションプランを策定するに当たっては、今年完成した新たなサッカースタジアムを活用したにぎわいづくりや地域コミュニティの活性化を新しい要素として入れていきたいと考えている。その他にも、皆様の方からこういう要素を入れてはどうかというものがあれば御意見いただきたい。

また、川辺空間が暗いということについて、今年度、相生橋のライトを全てLEDに変えることが計画されているので、相生橋については明るくなると考えている。全ての川辺空間が明るくなればよいが、地域住民もいる中で、どこまで対応するかも検討が必要と考える。

<山口委員>

子どもに対する安心・安全について、特に流川は、10代と思われる女の子などがうろうろしている。パトロールをしているのはたまに見かけるが声掛けはしていないため、難しい面があるかもしれないが、声掛けがあれば、子どもも親も安心できると思う。

<中田委員>

小・中学生の育成に関する事業があまり含まれていない気がするため、何か入れていただけないか。子育て応援アプリはどの世代までを対象にしているものか。実際、自身の子が小学校に入る際、学童保育の情報は口コミでしか得られず、何をしなければならぬのか全然分からないような状況

があったので、小学校や中学校へ上がる際に、そういった情報もアプリで入手できるようになればよいと思う。

また、中区には多くのハコモノがあるが、非常に使いにくい面がある。例えば、中区ではないが、子ども会としてマツダスタジアムで競技大会をやりたいと申し出ても許可されない。昔の広島市民球場は貸切することもできたが今はできなくなっている。例えば、サッカースタジアムで子ども会のイベントをしていただいたり、中学校のサッカー大会を開催するなど、そういった活用をしていただければと思う。

＜大井座長＞

アプリへの情報のあり方、施設の使用のあり方について意見があったが、何かコメントがあるか。

＜高山委員＞

広島市、特に中区では、原爆の影響により史跡等が残っていないことから、歴史の可視化運動ということで、幟町、袋町、竹屋、千田小学校、このたび本川小学校が加わり、6年生を中心に歴史に学ぶ出前授業をやっている。今年で6回目となり、広島城と郷土資料館の学芸員が、教育委員会とロータリークラブを巻き込んで実施している。

＜大井座長＞

高山委員からは歴史の可視化の活動の紹介をいただいた。併せて、事務局のほうでもし何かあればお願いしたい。

＜事務局＞（厚生部長）

先ほど中田委員からあった子育て応援アプリについて、おそらくのお答えで申し訳ないが、「母子モ」というアプリがあり、それは乳幼児の子育てを応援するアプリのため、小・中学生向けではないものと認識している。

＜大井座長＞

いろいろ意見をいただきありがとうございます。終了の時間も近づいているので、議事(3)については以上としたい。なお、本日、皆様からいただいた意見への対応については、座長に一任していただき、第2回懇談会に向けて事務局と調整させていただきたい。

それでは、本日の議事は以上になるので、進行を事務局にお返しする。

〔閉会〕

＜事務局＞

長時間にわたり御審議くださりありがとうございました。次回の第2回懇談会については、10月上旬の開催を予定している。座長と相談の上、改めて皆様と日程調整させてもらう。また、次回の懇談会では、先ほど座長からもあったように、本日の意見などを踏まえ、次期アクションプランの策定案を作成し、皆様へ説明した上で、意見交換を行う予定にしている。なお、本日の懇談会は、会議要旨を作成し、市ホームページで公開することとしている。作成次第、皆様にも送付する。それでは、本日は以上で閉会する。